

1 福岡県学力調査実施状況

(1) 調査学年・科目

小学校（対象学年：5年生） 国語、算数

中学校（対象学年：1年生及び2年生） 国語、数学

(2) 参加状況（代表値：国語）

小学校 5年生 福岡県：23,509人 糸島市：883人

中学校 1年生 福岡県：22,584人 糸島市：878人

2年生 福岡県：21,919人 糸島市：886人

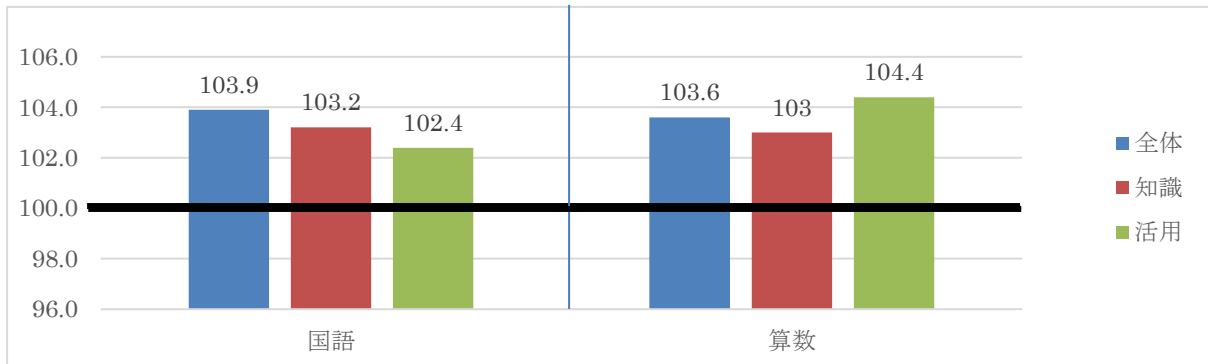
2 調査内容

出題内容はそれぞれの学年・教科に関し、主として「知識」（知識・技能）に関する問題及び主として「活用」（思考力・判断力・表現力）に関する問題を一体的に問う。

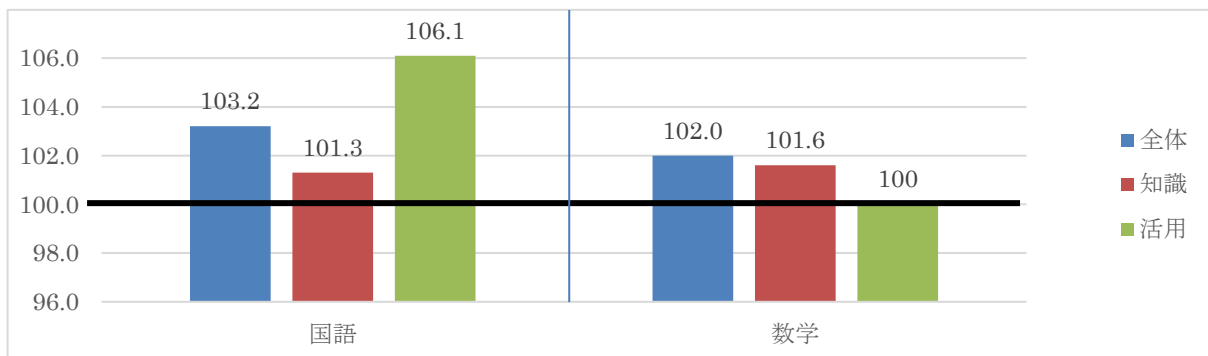
以下の「知識」、「活用」の数値は、それぞれの標準化得点を算出したものである。

3 平均正答率 ※県平均を100.0（太線）とした標準化得点に換算

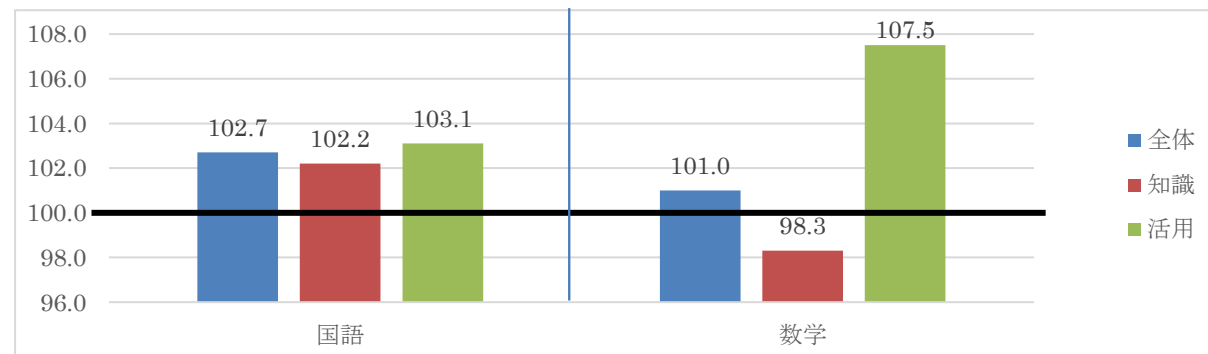
(1) 小学校 第5学年



(2) 中学校 第1学年



(3) 中学校 第2学年



- 国語、算数、数学において、小中共に、福岡県の平均を1～4ポイント程度上回っている。
- 中学校2年の数学の知識が県平均より1.7ポイント下回ったが、その他は全て県平均を上回った。特に、中学校1年の国語の活用、中学校2年の数学の活用で県平均より6～7ポイント上回った。

#### 4 結果から見えた糸島市の課題

##### 【小学校 第5学年】

- 報告する文章を書く問題で、目的や必要に応じて自分の考えの理由を挙げて書くことに課題がある。
- 図形の性質を根拠に、その図形が成り立つことを説明することに課題がある。

##### 【中学校 第1学年】

- 文章を効果的に読む問題で、分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関連付けながらまとめて書くことに課題がある。
- 小数÷小数（余りあり）の計算に課題がある。

##### 【中学校 第2学年】

- 意見文を書く問題で、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに課題がある。
- 比例・反比例において事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

##### 【小中共通】

- 国語における、小学校5年、中学校1年、中学校2年の共通の課題として、解答形式が記述のもの正答率が低い。
- 中学校数学において、各学年の「知識」「活用」の得点にばらつきがあり、系統的な指導の必要がある。
- 全体的に活用力が高く、知識を問う問題が低い傾向にある。

#### 5 福岡県学力調査を踏まえた今後の取組

糸島市学力向上プランに基づいて、下記の取組を行う。

##### (1) 学習指導の日常的な改善

- ・ 文章を読んで理解したことや考えたことを説明・表現する言語活動の発達段階に応じた位置づけと指導の強化。
- ・ 知識・技能問題に対する躓き等に応じるICT等を活用した個別学習の充実。
- ・ 児童生徒による授業評価の確実な実施と評価結果に基づく学習指導の充実

##### (2) 調査問題を活用した校内研修の実施

- ・ 領域・問題形式等による調査結果分析の確実な実施
- ・ 調査結果分析の定期考査等への反映と分析に基づいた授業改善の検討と実践